

○水生生物モニタリング調査結果一覧（相馬市沖L）

<相馬市沖L 水質底質採取項目>

項目	一般分析項目		放射性物質分析項目			
	水質	底質	水質 (Cs)	水質 (Sr)	底質 (Cs)	底質 (Sr)
調査地点	○	○	○	○	○	○
L-2	○	○	○	○	○	○

<相馬市沖L 現場測定項目>

項目	調査緯度・経度		調査日時			水質					底質		その他	
	緯度	経度	日	時刻 (水)	時刻 (泥)	水温 (℃)	泥温 (℃)	性状	色相	混入物	全水深 (m)	透明度 (m)		
調査地点														
L-2	37.8155°	140.9763°	R1. 11. 1	11:15	11:27	18. 5	18. 9	砂	5Y 3/1	貝殻片、貝	1. 5	1. 3		

<相馬市沖L 一般分析項目・放射性物質分析項目 水質>

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	DO (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩分	TOC (mg/L)	SS (mg/L)	濁度 (度)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Sr-90 (Bq/L)
	緯度	経度	日	時刻												
調査地点																
L-2	37.8155°	140.9763°	R1. 11. 1	11:15	8. 0	<0. 5	2. 4	8. 6	4240	31. 39	1. 1	7	7. 4	0. 0015	0. 023	0. 0010

注) N. D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<相馬市沖L 一般分析項目・放射性物質分析項目 底質>

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E _{N.H.E} (mV)	含水率 (%)	IL (%)	TOC (mg/g-dry)	土粒子の密度 (g/cm ³)	粒度組成								Cs-134 (Bq/kg-dry)	Cs-137 (Bq/kg-dry)	Sr-90 (Bq/kg-dry)					
	緯度	経度	日	時刻							礫 (2~75mm) (%)	粗砂 (0. 85~2mm) (%)	中砂 (0. 25~0. 85mm) (%)	細砂 (0. 075~0. 25mm) (%)	シルト (0. 005~0. 075mm) (%)	粘土 (0. 005mm未満) (%)	中央粒径 (mm)	最大粒径 (mm)								
調査地点																										
L-2	37.8155°	140.9763°	R1. 11. 1	11:27	7. 8	377	22. 2	1. 0	1. 8	2. 728	0. 4	2. 9	69. 8	23. 1	1. 3	2. 5	0. 33	4. 8	0. 72	13	N. D. (0. 14)					

注) N. D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<相馬市沖L 分析項目 水生生物>

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量 (kg-wet)	特記事項			放射性セシウム (Bq/kg-wet)			Sr-90 (Bq/kg-wet)
		緯度	経度										成長段階	消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137	
L-1	松川浦	37. 8210°	140. 9610°	R1. 10. 16	軟体動物	二枚貝	蚌	イボガキ	<i>Crassostrea gigas</i>	マガキ	11	0. 23	成体	—	軟体部	0. 50	N. D. (0. 30)	0. 50	—
L-2		37. 8155°	140. 9763°	R1. 10. 21	脊椎動物	硬骨魚	カサゴ	アサメ	<i>Hexagrammos otakii</i>	アイナメ	1	0. 087	未成魚	不明消化物	内臓除去	1. 1	N. D. (0. 61)	1. 1	—
L-3		37. 8217°	140. 9765°	R1. 10. 19	脊椎動物	硬骨魚	スズキ	タイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>	クロダイ	11	0. 33	未成魚	不明消化物	内臓除去	1. 3	N. D. (0. 37)	1. 3	—
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	マハゼ	80	1. 5	未成魚/成魚	—	—	1. 8	N. D. (0. 35)	1. 8	N. D. (0. 016)

※1：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※2：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※3：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※4：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、内臓（胃、腸）の除去が可能な試料については、除去して測定した。

※5：プランクトン（浮遊藻類）とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで濾した残留物を指す。

※6：河床付着物（藻類を含む）とは、石に付着した藻類をブラシ等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。

※7：N. D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

※8：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。